

②生活学習「音楽」での活用

対象児は衝動性が強く、先のこともすぐに気になるため、学習中の離席が著しく多い。(いろいろなものに興味をもって触りに行ったり、授業中関係なく教師のところへ行き、この後の内容やバスが来るかを、教師に尋ねる。)そこで、少しでも離席を減らそうと、【図1】のような教材を用意した。そのおかげで見通しについて聞くための離席回数は減ったが、どこでどんな活動をして、何回歌ったら終わるのが明確ではなかったため、1つの項目がいつ終わるかが分からず「終わったら、終わり？」と聞きにくるための離席回数は減らなかった。

・活動の具体的内容

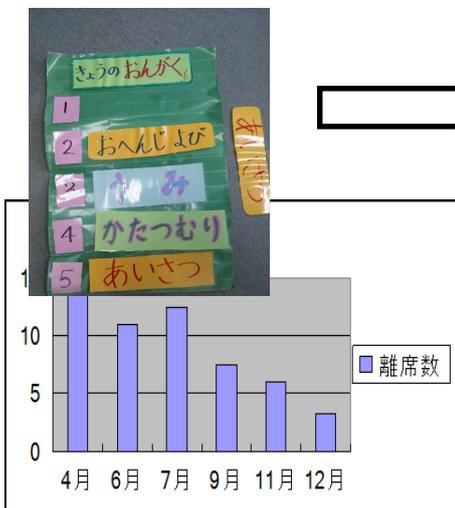
keynote で学習の流れと内容のプレゼンテーションを作り、テレビに写して流れを見ながら学習できるようにした。また対象児は目の見にくさもあるので、同じプレゼンテーションが見られる iPad を渡し、いつでも流れや内容が確認できる環境を整えた。また、本児のプレゼンテーションでは、学習の流れの項目をタッチすると、インクラクティブリンクでどんな曲を何曲するのか詳しく分かるようにした。【図2】

・対象児(群)の事後の変化

生活学習「音楽」の授業中(30分)何回本児が離席したかを記録し、変化を見た。5月～6月に流れを提示する教材を用意したことで1回の授業あたり3～4回離席数は減ったが、【図1】の情報以上のことが気になったときに対応することができず、それ以上離席数を下げることはできなかった。9月以降、対象児が気になったときに iPad で授業内容を確認できる環境を整えると、慣れてくるほどに自分で確認するようになり、離席して教師にたずねる内容もバスのことや明日のことだけになり、離席数が減少した。

【図1】

【図2】



きょうのながれ

- ① はじまりのうた
- ② なまえをよぼう
- ③ うごいてあそぼ
- ④ がっきであそぼ
- ⑤ のんびりたいむ

④ がっきであそぼ

- ▶ がっき がっき
- ▶ がっきをつかって あそぼ
- ▶ (三三七拍子)

「初めての流れだったのでどうしたらいいのが戸惑っていた。(9月)」
「教師の最初の説明をよく聞いていて、何度か iPad を見ながら今日することをよく理解して取り組んでいた。(11月)」
「⑤ののんびりタイムを楽しみに授業に取り組んでいた。最後ののんびりタイムが終わったら終わりということをよく分かっており、流れを気にしなくなった。(12月)」

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

徒歩学習のルート確認、音楽授業の流れの確認を iPad を使ってすることで、見通しがもて、興奮することなく安心して授業に参加できることが多くなってきた。また、毎回同じ流れで授業を受ける経験を積み重ねると、毎回流れを気にすることなく授業に参加し、楽しめるということも分かった。対象児は低学年であることから教師とのやりとりの中で流れの確認を行ってきたが、iPad の操作にも慣れてきていることから今後、1人で iPad を見て流れやスケジュールを確認するということにつなげていくことも可能

と思われる。

・エビデンス

毎回の授業後の評価を見ると、こなし作業だった授業も楽しむ様子が多く見られるようになり、授業の評価も「席に座って授業に参加できた」といったような学習規律に関する評価ではなく授業内容に沿ったものが増えてきた。流れがよく分かれば安心して、先の心配をすることなく授業に参加できるということが分かったので、授業の流れを統一したり、対象児に分かる形で流れを提示したりすることで対象児が様々な授業で楽しめるということが予想される。

・エピソード

流れが分かると安心して授業に参加でき、内容がよく入って楽しめるということが分かったため、「造形」や「音楽」の時間でも流れの提示を行った。すると他の授業も音楽同様に安心して授業を楽しめるようになり、本児の特性の一つだった「活動のゴールが見えた後の早送り」が減ってきた。本児の中でこなし作業だった授業が、楽しめる活動に変わってきたのだと思う。